

日本語教師のための研修会

「日本語教育の参照枠」をもとに
カリキュラム設計を学ぶ～「生活分野」での活用～

日時:2024年10月18日(金)～10月20日(日)

13時30分～17時40分

場所:学習院大学 東1号館13階

定員:15名

参加費:1万2千円

「日本語教育の参照枠」は、日本語教育が共生社会の実現に寄与することをめざして作られました。この共通指標をもとに、対象者に合ったシラバス・カリキュラムを考えていくことが大切です。本研修会では、「生活日本語」を学ぶコースを設計することを念頭に、「生活Can do」を軸にして適切な教室活動をデザインする力、また、学習者の「次の学び」につながる評価方法を身につけることをめざします。

＊対象者:以下のいずれかに相当する方

1. 地域日本語教育において、コースデザインを行うなど中核的な役割を担っている中堅日本語教師
2. 各種の日本語教育機関において、コースデザインを行うなど中核的な役割を担ったことがあり、これから生活分野での日本語教育に中核的な役割をもって活動したいと考えている日本語教師等

※ただし、地域日本語教育に何らかの形で関わり、理解があることが前提となります。



主催:公益社団法人 日本語教育学会

講義内容：

※詳しい内容と担当講師は次ページにあります。

- *「参照枠」を理解し、教育現場に生かす意義を学ぶ。
- *「生活Can do」を活用したカリキュラム設計の方法を学ぶ。
- *「生活日本語コース」の授業を計画し、検討する。
- *受容技能の評価の方法を考える。
- *パフォーマンス評価の課題を作成し、評価方法を検討する。
- *研修のまとめ：カリキュラムの現場活用に求められるもの

申し込み先：<https://tinyurl.com/ya8ut8tb>

申込締め切り：9月9日（月）

※締め切り後1週間以内に、受講の可否のご連絡
および入金方法のご案内メールを差し上げます。

お問い合わせ先：office@nkg.or.jp



選考方法：

お書きいただいた「日本語教育の履歴」や「この研修で学びたいこと」等
をもとに審査し、受講の可否を決定いたします。

事前学習：

事前に「日本語教育の参照枠 報告」の指定箇所および「生活Can do」
を見てきていただきます。また、これらの内容理解を促進するための講義動
画も事前にご覧いただく予定です。

本研修では、ネットワークづくりを大切にし、研修後ともに語り合える仲間づくりもめざ
します。そのため、研修前にMLを使った「自己紹介」なども進めてまいります。

研修会の予告：以下の会場でも同じ内容の研修会を開催します。

第2回 名古屋：名古屋国際センタービル

2024年11月22日（金）～11月24日（日）

受付開始：2024年10月1日（火）

第3回 福岡：アクロス福岡

2025年1月24日（金）～1月26日（日）

受付開始：2024年12月2日（月）

※実施時間：13時30分～17時40分

講義の内容

A (2)	「参照枠」を理解し、教育現場に生かす意義を学ぶ
	「日本語教育の参照枠」における言語教育観や評価の理念の重要性、「参照枠」が「今、なぜ、どのように現場で活用することが求められているのか」について共に考える。また、「参照枠」における熟達度の尺度やレベルの特徴、各種Can doに関する理解を深め、それぞれの現場での「参照枠」の活用について、参加者間で話し合う。
B (3)	「生活Can do」を活用したカリキュラム設計の方法を学ぶ
	「参照枠」の考え方に基づいた「生活日本語コース」を設計することを目標に、コースの方針、内容、方法、評価等について検討する。「生活Can do」を用い、「モデルカリキュラム」や「生活Can doユニット」を参考に、シラバス設計、カリキュラム設計を行う。自律学習を促す工夫、ポートフォリオの導入についても検討する。
C (3)	「生活日本語コース」の授業を計画し、検討する
	バックワードデザインを念頭に、特定のユニット(特定の生活Can do)を題材にして、授業を計画する。能力Can doや方略Can doとの関連付け、文字の扱い方、生活・文化に関する情報の扱い方についても検討し、具体化する。設計したコース、授業について報告し意見交換を行う。
D (2)	受容技能の評価の方法を考える
	受容技能である「理解すること 聞くこと」を取り上げ、「生活Can do」に基づいた課題を設定し、評価の方法を検討する。事前に作成してきた課題をもとにグループで検討し、受容技能の評価の方法について学びを深める。
E (2)	パフォーマンス評価の課題を作成し、評価方法を検討する
	「日本語教育の参照枠」で示された評価の考え方を理解した上で、「話すこと やりとり」に関わるパフォーマンス評価の課題と評価のためのルーブリックを、グループで具体的に検討する。方略Can do、能力Can doの活用方法についても考える。
F (3)	研修のまとめ:カリキュラムの現場活用に求められるもの
	研修全体を通した振り返りの時間とする。また、現場において適切な形で仲間と共有し、「個人の学び」を「全体(組織)の学び」に変えるために、求められる教師の資質・能力について考える。さらに各現場でどのように活用していくかについて、グループで話し合いを行い、全体で共有する。

担当講師		東京研修	名古屋研修	福岡研修
	A & F	嶋田 和子	内山 夕輝	嶋田 和子
	B & C	金田 智子	中上 亜樹	内山 夕輝
	D & E	横田 隆志	島田 めぐみ	横田 隆志